



Innovation Tohoku

～未来に向かって～



第23回 iSUC 仙台大会

2012年 11月7日(水)～9日(金)

仙台サンプラザホテル & ホール(宮城県仙台市)

開催目的 IT 研鑽、人材育成、参加者交流、地域交流を通しての社会貢献

大会テーマ Innovation Tohoku ～未来に向かって～

申込期間 2012年 8月20日(月) 9:00～10月19日(金) 18:00

参加費(税込) ※大会参加費、1日目夕食、2・3日目昼食代を含みます。

会 員 : 60,000円 [特別割引] 50,000円 (9月28日(金) 18:00までのお申し込み分)

非会員 : 65,000円

主催：全国IBMユーザー研究会連合会 支援：日本アイ・ビー・エム株式会社 協力：東北IBMユーザー研究会

くわしい案内とお申し込みは：
iSUC ホームページから

iSUC

検索

<http://www.uken.or.jp/isuc/>

内容は随時更新されます。ブックマークに入れて、定期的にチェックしましょう

「今年しかできない、
この地でしかできない大会」を、
参加者の皆様と共に
創り上げましょう

第23回 iSUC 実行委員長

丸谷 哲司

(株) コンサルTFARM



東日本大震災の被災地で開催する意義とは？

第23回 iSUC (アイザック) 実行委員会は、本年4月に仙台会場の下見を行なうと共に、被災地である石巻と女川まで足を伸ばしました。そこにあったのは、残された家屋の土台と壊れた茶碗の破片が転がる更地のままの住宅地、横倒しになったままのビル、山のように積まれた瓦礫や自動車…という光景でした。それは、「復興」というにはまだほど遠い現実で、私たち実行委員は、いかに人間文明が自然の前に無力であるかを思い知らされるとともに、これからの復興に向けた長い道のりをひしひしと感じ、「なぜ、今年のiSUCは仙台でやらなくてはならないのか」を、改めて確認し納得した次第です。

本当に私たちは、震災から学んだのでしょうか？

今回のiSUCは、「今年しかできない、この地でしかできない大会」を、参加者の皆様と共に創り上げたいと思います。

参加者同士が、被害者、支援者といった関係ではなく、同じITに関わる当事者としてひとつになってこの震災と向き合い、学び交流する場としたいと考えています。立場を同じくする者同士、あるいは当事者となる可能性がある者同士であるという視点に立ち、震災で被害を受けた方々の経験から真に学び、そして共に元気になれる場が、iSUC 仙台大会なのです。

未来に向けてのInnovationについて 語り合う場です

iSUC 仙台大会では、参加者の皆様に「参加したからこそ得られるリアルな情報」を提供します。また、これまでと同様、iSUCでしか聞くことのできないユーザー事例のセッションや、スマートフォンやタブレット端末関連の最新技術情報も多数提供します。災害の現実を直視し、現実 に 立脚。さらに最新技術も踏まえた上で、皆様の知恵をつなぎ、「未来に向けてのInnovationについて語り合う場」としましょう。

多数の皆様のご参加をお待ちしています。

iSUCは、IBMのユーザー団体が主催する、IBMシステム・ユーザーのための研修会です

iSUC(アイザック)は、3日間で集中的にスキルアップを図り、人脈を広げることができる、IBMシステム・ユーザーのための研修会です。3日間で約100コマの「参加型セミナー(セッション)」があり、IT活用技術をはじめ、貴重なIBMユーザーによる生の事例紹介、最新のIBM技術情報を入手できます。初日の夜に開催される「情報交換会(iES)」では、社外の情報システム部門のメンバーと交流していただけます。また「IT展示会(iSUCモール)」では、最新技術やソリューションについて、出展社から直にくわしい説明を聞くことができます。

若手・中堅社員、CIO、情報システム部門長の方に向けた、iSUCならではの盛りだくさんなプログラムにご注目ください。

「スマートフォン/タブレット」「クラウド」「人材育成・人材活用」など注目のキーワードで構成されるセッション

今年のセッションは、「スマートフォン/タブレット」「クラウド」「人材育成・人材活用」などの12のキーワードに着目。加えて、被災地・東北研のメンバーによる震災から学んだノウハウなど、ユーザー企業のIT活用事例のセッションも数多くお届けします。

もちろん、今回も講師と参加者が共に語り合う大人気のセッション「iSUC白熱教室」を開催します！全国から参加のIT技術者が集まる場で、あなた自身の貴重な体験を熱く語ってください。主役はあなたです。

情報交換会での新しい出会いは、あなたの財産に

「情報交換会(iES)」では、企業や年齢、役職等の壁を越えて、社外の、また異業種の情報システム部門のメンバーと幅広く交流していただけます。iSUC白熱教室、そして情報交換会での新しい出会いが、きっとあなた自身の貴重な財産になるでしょう。たくさんのお名前を名刺を用意してご参加ください。

最新のソリューションに触れられるIT展示会

大会期間中、会場には「IT展示会(iSUCモール)」も併設されます。セッションで知識を学んだら、モールで最新のソリューションに触れてみませんか。最新技術やソリューションを、出展社のブースでじっくり見ていただくことができます。

大会テーマ

「Innovation Tohoku ～未来に向かって～」に 込めた思い

今年のiSUC 仙台大会では、震災から復興に向けて歩んでいる東北・仙台を「日本の変化の起点」と捉えて、大会テーマを「Innovation Tohoku ～未来に向かって～」としました。今大会で、参加者の皆様と共に学び、共に交流し、共に経験から学び、共に知恵を交換したい。そして確たる思いを胸に、揺るぐことなく、真っ直ぐ前を向いて一緒に進んでいこう——こういった思いを「未来に向かって」のサブテーマに込めています。



セッション
だけじゃない！



基調講演も聞き逃せません

「駄目サラリーマンが年商20億円の営業所長へ！そして、鉄道会社の『公募社長』への奇跡の転身！
～目指せ！経営黒字化『公募社長』アイデア&人材育成術～」

講師：山形鉄道(株) 代表取締役社長 野村 浩志氏

小学生時代は鉄道オタクのいじめられっ子、根暗の中学・高校時代の愛読書は時刻表。ようやく入ったあこがれの大手旅行代理店だったが、海外添乗で参加者全員の航空券を紛失する、飛ばされた山形営業所では旅行見積書の計算間違いで約200万円の損害を出すなどの失敗が続く。仕事に対するやる気もない、会社に対する貢献意欲もない、人との協調性もない、だから友達もいないという、ないないづくしの駄目サラリーマン人生だった。

そんな野村さんも、山形県長井市を中心にしたネットワークが徐々に広がり始め、趣味の鉄道と会社の仕事とうまくコラボレーションするようになる。こうして大赤字だった山形営業所

も、気がつけば売上高20億円を記録するようになった。しかし、交流と仕事というハードワークがたたって身体をこわしてしまう。そんな時、野村さんの目に留まったのが「フラワー長井線の社長を公募する」という新聞記事だった。

——駄目サラリーマンがどうやって立ち直り、廃線寸前だった第三セクター鉄道を黒字転換に向け奮闘しているのか。その秘密を、iSUC 仙台大会の基調講演でお聞きください。部下のやる気を引き出しきれていないという自覚があるチームリーダー、自分の指示を聞かない部下を抱えているチームリーダー、そしてなぜ自社の士気が上がっていないのかの原因を知りたいという経営者の方、聞き逃せませんよ。